

2 たずね人探し

プログラムの目的 森林の観察を通じて、生き物の多様さに気づかせる

プログラムについて
たずね人カードと探索マップをもとに季節に見られる多様な自然物を探し歩く活動を進めて、森林での生き物の観察の糸口をつかませ、さらに、観察素材を通して森林の生き物の多様さに気づかせる。

実施時期 5月-10月 実施場所 森林学習センター周辺の森林全域
必要物品 たずね人カード、探索マップ

教材研究 と 準備

初 動 段 階	学校との打ち合せと実施内容の検討 候補ルート選定と観察素材の探索 ツタウルシ・危険箇所等チェック 雨天時の対応検討
	観察素材および観察箇所の選定 観察素材の位置確認 園路形状の精査とマップ化 探索マップの作成 たずね人カードの作成 指導方針の検討・必要小物類の考案と作成
内 容 づ く り	
最 終 段 階	指導案づくり・文書化 直前現地打ち合せ・リハーサル

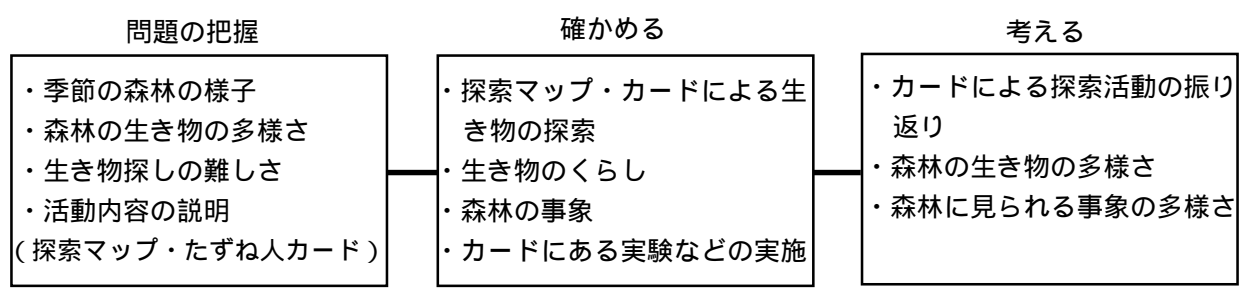


観察素材および観察箇所の選定



教材（探索マップ・たずね人カード）の確認

展開の概要



注意事項

- ・教材研究と準備に時間をかける
- ・地図とカードによる自主的な探索活動の場面づくり
- ・安全管理

準備の進め方

教材について

1 実施場所の選定と把握

現地を踏査し、教材を探す。

季節の花、特徴のある樹木、森林に特有に見られる事象などを抽出する。

この段階では、指導者の印象に残ったものをたくさん集める（30種前後）。

大まかな位置を記し、写真撮影を行う。

ツタウルシ、危険個所の把握を行う。

2 活動場所の選定と資料作成

抽出した素材から、参加者に提示するのに適切なものを教材として選抜する。

季節性、希少性、教材の位置関係等を参考に、20種類前後に絞る（数は時間により調整する）。

探索マップとたずね人カードを作成する。

出発地に近い所にあるものから順に番号をつけて、地図上に標記する。また、探す場合にヒントになる樹木や目印を描いておく。

たずね人カードには、依頼人（たずね人とつながりのあるもの）とたずね人の絵や写真、ヒント等を載せる。

パソコン等を活用し、見やすく楽しいデザインにする。

ラミネータでカードを包むと何回でも使用できる。

3 最終準備

- ・ 現地の最終確認
- ・ 活動のリハーサルと時間の把握
- ・ 物品や教材の最終確認



実施場所の様子（2班で実施のため異なるルートを選定）

現地にみられた素材の例



ヤマブドウの花のもと



エゾノリュウキンカの結実



探索マップとカード（エゾノリュウキンカの結実）の作成例

4 活動の進め方

問題の把握

季節の森林の様子についてたずねる。

- ・ 今頃の森林に見られる花や昆虫
- ・ 森林の中で生き物を探した経験

森林には木や草花、昆虫などたくさんの生き物がいるが、これを探して見つけるのは難しい。

- ・ 種類がわからない
- ・ 生えていたりすんでいる場所がわからない
- ・ 森林の中に入るとみんな同じ景色に見えて区別がつかない

今日の活動では、探索マップとたずね人カードを使って、森林の中の色々な生き物探しをすることを告げる。

教材を取り出して見せ、役割の分担を行わせる。

- ・ 地図を基に、どのへんに何番のものがあるか知らせる役割(地図係)
- ・ たずね人カードを見せながら、どんなものを探して欲しいか知らせる役割(カード係)
- ・ 見つかったカードを回収して、番号を記録する役割(回収係)

確かめる活動

地図係の参加者は地図上の目印等を基に番号の場所を探し、見つけたら、カード係の参加者に番号を伝える。

カード係の参加者は、カードの内容を読み上げ、絵を全員に見せて似ているものを探す。



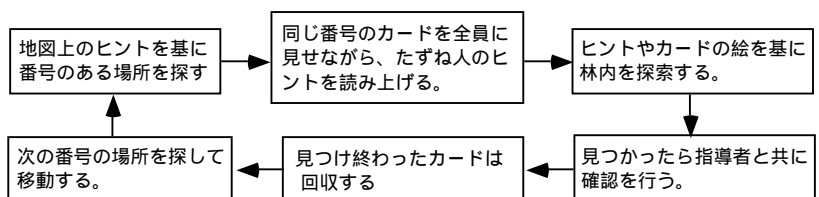
- ・ 森林に行っても、生き物の種類や居場所がわからなくて何も見つけられない
- ・ まわりがみんな同じに見えて区別がつかない



探索マップ・たずね人カードを使って、今日の活動を説明する。



カードの内容を確認し、役割分担をして森林に出発する。



活動の流れ(探索・確認・回収)

活動の進め方

カードによる探索の事例

ツクバネソウ（ユリ科）



ツクバネソウ（開花前）

- ・ ツクバネソウはユリの花の仲間であること
- ・ 4枚の葉と変わった様子の花を咲かせること
- ・ 毎年少しづつ大きくなって花を咲かせること
- ・ 森林にはユリの花の仲間がほかにもたくさんあること（カタクリ、エンレイソウ、オオアマドコロ等）

適宜、補助教材を用いて説明しても良い。また、参加者とのコミュニケーションを重視する。

木の上に生えている木



ミズナラの樹幹に更新したトドマツ

- ・ 松の木の種類が偶然に樹幹に落ちて育ったこと
- ・ 樹幹の腐った部分や倒れている樹木の上に運良く種が落ちるとこうして育つ場合があること
- ・ 種は風や鳥等、様々なものに運ばれること

付近に倒木上に更新している事例がある場合は取り上げて説明する。

教材について

No.14



依頼人
ユリの花

わたしの親せきをさがして下さい

葉っぱが4枚ならんでついています。
まんまかに 緑と黄色の花がついています。
お正月にする羽根つきの羽根のようです。
森林の中の道ばたによく咲いています。

タイプ：草花
さがしやすさ：やさしい



ツクバネソウのカード

依頼人をユリの花とし、ツクバネソウの葉の形や枚数、花の様子等についてのヒントと絵を描く。



ヒントと絵を基に林内を探索させ、見つかった知らせがあったら、カードと照合させて確認させる。正解なら特徴を説明する。

No.5



小さな松の木

ぼくがどこに かくれているかさがしてごらん。

木は地面に生えるとはかぎらない。
ぼくは、ほかの木の上に生えて元気にくらしている。
道に、まがってのびている大きな木の上だよ。
道のまわりにそういう木がないか、注意して見てごらん。
もうすこしがんばれば、根が地面にとどいてもっとおおきくなれるんだ。

タイプ：樹木
さがしやすさ：むずかしい



木の上に生えている木のカード

小さな松の木が呼びかける形式とし、居場所やくらしの様子についてのヒントと絵を描く

クマイザサの花（イネ科）



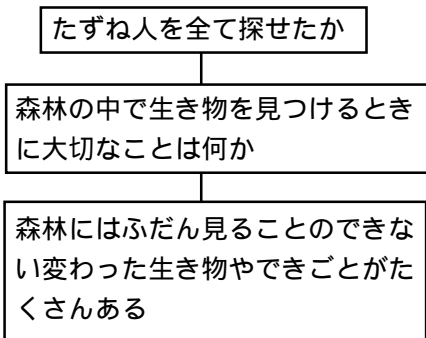
- ・ササにも花が咲くこと
- ・イネに様子が似ていること
- ・花は何年かに一度咲くこと
- ・イネの仲間も目立たないけれど花を咲かせること
- ・花には色々な形があること


アリとカタクリの種子の実験

事例では取り上げなかったが、カタクリやエンレイソウの結実を取り上げた場合には、林内のアリの巣の周辺にタネをばらまく実験をさせることができる

カタクリの種子には、アリが好む匂いを出す器官があり、種子はアリによって運ばれて散布される。

考える活動





お米

No.3

ササの花をさがしてください。
何をかくそう彼は、私（イネ）の親せきなんです。



ササのあるところに たぶん います。
あんまり目立ちません。
イネに似ています。
数十年に一回くらいしか咲かない珍しい花です。
花が咲くと、ササはいつせいに枯れる といわれています

タイプ：草 花
さがしやすさ：むずかしい

クマイザサの花のカード

依頼人をお米とし、場所や姿等についてのヒントと絵を描く



依頼人：ア リ

No.3

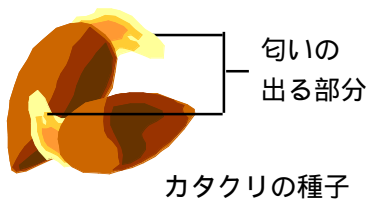
僕らの巣のそばに
まいてごらん！



カタクリのタネをさがしてください。
右の絵のような、変わったかたちの入れ物の中に入っています。
高さは15cmくらいです。
入れ物の中のタネを、僕らの巣のそばにまいてごらん。

タイプ：草 花
さがしやすさ：少しむずかしい

カタクリの種子のカード



森林の生き物を探するには、よく見て探すことがとても大切

－資料－ 探索コースの設定並びに教材の確保と維持管理作業

この活動は、小学校生徒29名を2班に編成し、森林学習センター周辺の森林を利用して行った。たずね人の探索時に2班が交差しないような探索コースを下図のように定めた。



活動後の反省

- ・地図とカードを教材に用いたことにより児童の興味関心を喚起し、目的を明確にさせながら森林内での探索活動を指導することができた。
- ・29名の児童を2班に編成したため、人数も概ね適正であった。
- ・カード系の児童が、何を探すべきなのかを伝達する場面で、全員に絵やヒントを伝えづらい面があった。カードの大きさや枚数などを改善していく必要がある。
- ・年間を通じてたずね人を抽出し、地図とカードを作成しておけば以後の活動の際に必要なものだけを選んで提示できるので、教材の抽出を他の季節でも実施しておくべきである。
- ・カードの絵を作るのに困難が予想される。写真や既存の絵などを活用したカードを作成することも考えておくべきである。

教材確保と維持管理作業

森林利用施設は定期的な維持管理作業が必要であり、特に初夏からの草刈り作業は利用者への安全確保や景観の維持などの意味から作業が行われる。しかし、この作業が森林散策路で行われた場合に、教材となる素材が消失し、プログラムの実施や実施できたとしても成長等、季節との関連づけにより内容をより深めて確かめる場面設定ができなくなる可能性がある。

プログラムの実施に用いるフィールドや時期をあらかじめ選定し、その場所については草刈りの作業時期や場所に配慮が必要である。



草刈り作業が行われたフィールド